

学 会 名

回復期リハビリテーション病棟協会 第43回研究大会in熊本
(2024年3月8・9日)

研究テーマ

当院回復期リハビリテーション病棟入院患者におけるリハビリ参加意欲の評価及びその影響要因の分析

病 院 名

医療法人社団健育会 石巻健育会病院

演 者

○佐藤 駿(理学療法士) 木村 麻菜(理学療法士) 首藤 佑介(理学療法士)
小野寺 泰弘(作業療法士)伊東 貴広(理学療法士) 荻原 久佳¹⁾
¹⁾名古屋女子大学 医療科学部 理学療法学科(准教授)

概 要

【はじめに、目的】

入院初期のリハビリテーション（以下、リハ）への参加意欲が入院時の運動機能と関連することが報告されている。

しかし、入院期間中にリハへの意欲は変化し、入院時と退院時では、参加意欲に差が生まることがあり、退院時の参加意欲が、運動機能や、認知機能にどのような影響を及ぼすかは明らかになっていない。

本研究では、入院時と退院時でのリハへの参加意欲に影響を及ぼす要因を明らかにすることを目的とした。

【方法】

2022年9月から2023年6月までに当院回復期リハ病棟を退院となった患者121名（在院日数1カ月未満の対象は除く、男性50名、女性70名）を対象とした。

リハへの参加意欲の評価には、Ikenzieらが作成したPittsburgh Rehabilitation Participation Scale（以下、PRPS）を用い、理学療法初回介入時と最終介入時の患者の参加意欲を評価した。また、参加意欲に影響を及ぼす要因の分析には、入院時PRPS、退院時PRPSをそれぞれ目的変数とし、年齢、性別、在院日数、疾患分類（運動器、脳血管、その他）、運動FIM、認知FIMを説明変数として、Stepwise法による重回帰分析を行った。

退院時は上記の項目に加え、運動利得、認知利得を説明変数とした。

統計解析には統計解析ソフトRコマンダー4.3.1を使用し、有意水準は5%とした。

【結果】

入院時PRPSと退院時PRPSに影響する因子として、それぞれ入院時認知FIM（標準偏回帰係数 $\beta=0.67$ 、 $p<0.01$ 、調整済み決定係数 $R^2=0.44$ ）と退院時認知FIM（ $\beta=0.53$ 、 $p<0.01$ 、 $R^2=0.51$ ）が抽出された。

【考察】

当院では、参加意欲には、認知FIMが強く影響することが示唆された。この因果関係について、更に検討の必要がある。